

わが

子どもたちが未来や郷土への誇りを持てるような「日本一輝くまち・燕市」を目指して

はじめに

燕市は、越後平野のほぼ中央、県都新潟市と長岡市の間に位置しています。日本一の長河信濃川と信濃川の分流である中ノ口川、西川に沿って形成されています。

北陸自動車道三条燕インターチェンジと上越新幹線燕三条駅といった高速交通機関があるほか、



豪華絢爛な「分水おいらん道中」

主要国道116号、289号が整備され、さらにJＲ越後線と弥彦線が交差するなど交通網が充実しています。

県下有数の工業地帯であり、金属食器、金属ハウスウェア製品は国内の主要産地となっており、中でもカトラリーはノーベル賞晩餐会で使用されるなど、世界で認められている逸品です。

また、名僧良寛ゆかりの地でもあり、「日本さくら名所100選」の地、大津分水で行われる豪華絢爛な「おいらん道中」は特に有名です。燕市は、産業と歴史と自然が調和する都市です。

燕市の未来戦略

平成25年度から、魅力あるまちを次の世代へつないでいくため、さまざまな分野において、未来へ

の礎を築く事業を展開しています。

まちづくり関係では、「つばめ若者会議」を設置し、20年後の市の将来像「未来ビジョン」と「アクションプラン」を策定し、平成26年度からその実現に向け動き出すとともに、活動を通じ、次世代のまちづくりを担うリーダーを養成していきます。

産業関係では、「つばめ未来産業プロジェクト」を立ち上げ、産学連携やほかの地域・機関とのネットワークを構築し、そのさまざまなつながりを活用した中で、地場産業の輝かしい未来を築くための独自戦略を構築しています。

また、教育関係においては、子どもたちが一層進展するグローバル社会の中で生きていくことが必須となることを見据え、幼稚園・保育園、小学校、中学校を通じた国際理解教育および英語教育を行

い、世界に通じる人材を育成する事業「Jack&Bettyプロジェクト」を展開しています。

本プロジェクトには「燕子ども応援おひさまプロジェクト」の収益を財源の一部として活用しています。これは太陽光発電によるクリーンエネルギー化を推進するとともに、発電により生じる収益の一部を「燕子ども夢基金」に寄付いただき、英語スピーチ優秀者を親善大使として海外派遣する費用として活用しているものです。

市役所新庁舎の開庁

平成25年5月、新庁舎を開庁しました。市民の皆さまの利便性向上を図るとともに、行政機能の一元化による分野横断的な施策の展開や迅速な意思決定など、さらなる行財政改革に取り組んでいます。開庁に併せて、市内循環バス「スワロー号」とデマンド交通「おでかけきららん号」を運行し、市内交通の利便性を図っています。

住みやすく災害に強いまちづくり

「燕市空き屋等の適正管理及びまちなか居住推進に関する条例」に基づき、管理不全の防止および利活用や居住促進について支援を講じています。そのほか、排水対策や民間企業とタイアップによる防災機能を備えた公園整備など、災害に強いまちづくりを推進しております。

イメージアップ燕推進事業

地場産業の振興や交流・定住人口の拡大を図るためには地域の魅力を高め、積極的に情報発信をしていくことが重要です。

本市は「つばめ」という名前を縁に「東京ヤクルトスワローズ」という知名度の高い媒体との連携による



「東京ヤクルトスワローズ」とのコラボ商品

地域の魅力アップ・地域の活性化に取り組んでおります。球団とコラボした「つば九郎米」「つば九郎 E C O カップ」の商

品化やファン感謝 DAY イベントなどへの P R ブース出店による地場産業の振興、また、首都圏ファンを対象とした田植え・稲刈りツアー「スワローズ・ライスファーム」や「東京ヤクルトスワローズカップ少年野球交流大会」および現役選手による「少年野球教室」の開催などにより、交流人口の拡大や子どもたちの夢や希望の醸成に寄与するなど、産業面以外においても派生的な効果を上げております。

さらに、今まで以上に本市の魅力为全国に情報発信するため、球団マスコットつば九郎だけでなく、本市出身のゆかりの方々を燕市 P R 大使に任命し、幅広く市のイメージアップに努めていきます。

燕市の目指すべき未来像

これまで本市で輝きを放ってきたものといえ、やはり第一に、ものづくり産業です。本市のものづくりは、長年培ってきた技術を次の世代にしっかりと伝承しながら、今後も輝き続けさせることが大切です。加えて医療分野、エネルギー分野など新規分野に挑戦する企業群を育てることにより、これまでとは違った新しい輝きを発信して

いくことも必要です。先に決定しました 2020 年の東京オリンピック開催は、燕のブランドを世界に発信する絶好の機会であり、市をはじめ業界団体、商工会議所、商工会が一致団結し「つばめオリンピックプロジェクト」を立ち上げ、本市全体として国家的プロジェクトに貢献していきたいと考えています。同時に重要なのが未来の燕を担う子どもたちの育成です。「人づく

プロフィール

- ◆ 面積 110.94 km²
- ◆ 人口 8万2678人
- ◆ 世帯数 2万8235世帯

〔将来都市像〕日本一輝くまち・燕市
〔まちの特徴〕さらりと光る伝統と技、信濃川が育む豊かな自然、人と自然と産業が調和する産業都市

〔市町村合併〕平成18年3月20日、燕市、吉田町、分水町が対等合併

〔特産品〕金属洋食器、金属ハウスウェア、鋳器銅器、トマト、なす、きゅうり、



燕市長 鈴木 力



つば九郎米（ヤクルトスワローズコラボ）、背脂ラーメン、天神講菓子
〔観光〕燕市産業史料館、磨き屋一番館、長善館史料館、燕市分水良寛史料館、米納津隕石落下地記念碑、良寛修行の地国上山、信濃川大河津分水
〔イベント〕分水おいらん道中、越後くがみ山酒呑童子行列、燕青空即売会、天神講、飛燕夏まつり、吉田まつり、分水まつり

り」は「まちづくり」の原点。子どもたちは、地域の大切な宝であり、燕で生まれ育つ子どもたちは、燕の未来そのものです。子育て環境や教育環境の充実を図りながら、子どもたちの瞳が夢と希望でキラキラ輝いているまちを目指してまいります。未来像「日本一輝いているまち・燕市」の実現に向けて、引き続き心血を注いでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「みんなのでつくるうう元気な あつぎ!!」を合い言葉に

はじめに

「みんなのでつくるうう元気なあつぎ」、これは市長就任当初から掲げているスローガンであり、市民の皆さまと行政が総力を挙げて「元気なあつぎ」の創造に取り組んでいく意気込みを表しています。市民の元気は「厚木の元気」の源であり、厚木の元気は「強い厚木」に進化させるエネルギーとなります。

「みんなのでつくるうう元気なあつぎ」、その実現に向けた取り組みの一端をご紹介させていただきます。

「経済活性化・企業誘致に向けた取り組み」

厚木市は、神奈川県中央部に位置し、地域の東側には相模川が流れ、西に丹沢山地の美しい山並みが広がり、豊かな自然に恵まれる

とともに、古くから交通の要衝に位置するという地理的な優位性と先人のたゆまぬ努力により、首都圏における流通・業務機能を担う拠点都市として発展してきました。

市内には東名高速道路や首都圏中央連絡自動車道（圏央道）のインターチェンジが開設され、広域自動車交通の拠点としての優位性を積極的に活用したまちづくりを推進しています。その一環として、土地区画整理事業により良好な産業用地の創出を図るとともに、「産業立地元気アップサポート事業」として全国でもトップレベルの支援策を用意し、積極的な企業誘致を推進しています。

また、平成25年2月に本市を含め神奈川県9市2町が「さがみロボット産業特区」に指定されたことから、ロボット産業の新たな集積

を目指すとともに、平成25年7月には「厚木市ロボット産業推進事業費補助金」を新たに創設し、主に市内に事業所

を置く企業などにより組織された共同事業体に対して、ロボット製品開発にかかる費用の一部を支援しております。

「中心市街地活性化に向けた取り組み」

本市の玄関口である小田急線本厚木駅を中心とする中心市街地では、大型商業店舗の撤退により空きビルとなった既存建物を活用した都市再生整備計画事業を進めており、平成25年4月に策定した「中心市街地の公共施設再配置計画」に基づき、公共施設の集約化と新たなにぎわい創出を目的とした公共

アミューあつぎ
2014 spring open



「アミューあつぎ」外観イメージ

施設と商業施設の複合施設「アミューあつぎ」の整備を進めております。

「アミューあつぎ」は、本市出身で国際的に活躍されている建築家の石上純也氏を監修アドバイザーとして迎え、商業施設や文化・芸術・生涯学習機能を導入した「誰もがワクワク楽しくなる場所」を基本コンセプトとした中心市街地におけるコア施設としての再生を目指すものであり、本年4月末のオープンを予定しております。

「行財政改革の推進」

本市は、昭和30年2月に市制を

施行し、昭和39年度以降、半世紀にわたり地方交付税の不交付団体を維持し続けておりますが、近年は財政力指数が1.0に近づく厳しい状況となっております。

このような中、まちづくりへの市民参加と協働を進めるための基本的な考え方やルールなどを定めた自治基本条例や市民参加条例の制定、徹底した情報公開や組織のスリム化、外部評価による事業の見直しといった行財政改革を強力に進めた結果、平成23年度には日本経済新聞社が行っている「全国市区経営革新度ランキング」で全国2位の評価をいただいております、今後、改革の歩みを止めることなく、



厚木市マスコットキャラクター「あゆこちゃん」

市民の皆さまとともにさらなる行財政改革を着実に推進してまいります。

「市民協働によるまちづくり」

私は、「市民協働」「現地対話主義」を信念とし、市民の皆さまと協働で新しい地方自治の仕組みづくりに積極的に取り組んでおり、優先的に取り組むべき課題を解決するという強い思いから、子育て環境の充実を目的とした「子ども育成条例」や、市民協働によるまちづくりの推進を目的とした「市民協働推進条例」など、「10の条例」の制定を行いました。

また、平成22年11月には、地域住民と行政が協働して「地域の誰もがいつまでも健康で幸せに暮らせるまち」を創ろうという取り組みであるWHO（世界保健機関）の国際認証「セーフコミュニティ（SC）」を国内では3番目に取得すると同時に、市立清水小学校が同じくWHOの国際認証「インターナショナルセーフスクール（ISS）」を国内2校目（市町村立の小学校では国内初）に取得しております。なお、清水小学校については、平成25年度にISSの再認証を取得しており、

その際、ISS認証審査員から清水小学校の取り組みは世界トップクラスであるとの高い評価をいただいております。

むすびに

本市は平成27年2月1日に市制施行60周年を迎えます。還暦を迎える愛するふるさと厚木をもっと元気で魅力的なまちにするために、情熱を傾け「元氣全開」で取り組ん

でまいりたいと思えます。

最後となりますが、平成25年11月に開催されました「ゆるキャラグランプリ2013」では、本市のマスコットキャラクター「あゆこちゃん」が40万4644票を獲得し、全国第6位（前年9位）と大健闘いたしました。「あゆこちゃん」をご支援いただきました全国の皆さまに、この場をお借りして御礼申し上げます。

プロフィール

- ◆ 面積 93・83 km²
- ◆ 人口 22万4955人
- ◆ 世帯数 9万5141世帯



厚木市長
小林常良

〔将来都市像〕「元氣あふれる創造性豊かな協働・交流都市 あつぎ」
〔まちの特徴〕豊かな自然に恵まれた、交通の要衝という地理的な優位性を持つ首都圏における流通・業務機能を担うまち
〔特産品〕とん漬け、シロココ、鮎、梨、いちご、ぶどう、かぼす、大豆、トマト、



川魚料理、タニシ料理
〔観光〕飯山・七沢・広沢寺・かぶと湯温泉、飯山観音、県立七沢森林公園、飯山白山森林公園、大山
〔イベント〕あつぎ鮎まつり花火大会、にぎわい爆発！あつぎ国際大道芸、あつぎ飯山桜まつり、かながわフードバトルinあつぎ

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

1人称で語れるまち 「大家族たかはま」を目指して

三州瓦のまち高浜

高浜市は、名古屋市から南東に25kmの位置にあり、面積13・02kmという平坦でコンパクトなまちです。東西4・2km、南北5・5kmと市域は狭いですが、愛知県の三河部と尾張知多を結ぶ交通の要衝になっております。

江戸時代から窯業のまちとして栄え、特に「三州瓦」の地域ブランドで知られる屋根瓦の生産では、本市を含むこの地域で全国シェアの約6割を占めております。

近年は、輸送機器関連産業がもつづくりの中心になっておりますが、第2次産業就業人口比率が全国的に見ても高いのが特徴です。

震災以降、瓦の販売は苦戦を強いられる状況が続く中、各メーカーにおいても改良を重ね、災害に強

い商品開発やガイドライン工法と呼ばれる災害に強い施工方法の開発などが進められました。

瓦は耐震性はもちろんのこと、メンテナンスを含めてトータル的に見れば費用面についてもほかの屋根材より優位性があり、さらに町並みや景観などにも調和する屋根材です。そこで、行政としても地場産業の活性化につながるよう、愛知県陶器瓦工業組合と一体になって、瓦を採用いただけるよう働き掛けをさせていただいているほか、近年では東北の被災地の復興支援にも協力させていただいております。

まちづくり協議会

本市には、各小学校区に「まちづくり協議会」が設置されており、まちづくり協議会は、各小学

校区の町内会や各種団体、住民が

連携して、各種団体だけでは解決できない問題や課題について取り組み、まちづくりを進める新しいコミュニティ組織です。平成17年に市内最初のまちづくり協議会として、高浜南部まちづくり協議会が設置され、その後、順に市内5つのすべての小学校区で設立されました。市の個人市民税の5%を財源とした「市民予算枠」からの交付金をまちづくり協議会の財源とし、介護予防や子どもの健全育成、地域の防災・防犯に関する事業など、それぞれの地域課題に合わせた活動が行われております。

まちづくり協議会には、市の職員を3年の任期で特派員として派遣する制度があり、イベントや会議などに参加し、行政とのパイプ役を務めております。職員も市民

と一緒にあって、汗をかくことで、市民と行政の距離を縮めていると感じております。

高浜とりめし学会

平成22年、「とりめしでまちを盛り上げよう」と「高浜とりめし学会」が発足されました。明治以降、旧吉浜地区において、養鶏が盛んになったことに伴って、卵を産まなくなつた鶏を食べる文化が始まり、その代表として、「とりめし」が食べられるようになりました。学会が愛Bリーグに登録された平成24年から、Bリーグランプリに参加しております。地元愛知県豊川市で開催された平成25年の同グランプリでは、単に「とりめし」を提供するのではなく、自分たちで米作りから行うという学会の提案で、春には子どもたちと一緒に田植えをし、秋には稲刈りをし、収穫したお米を使って「とりめし」を提供。参加2年目にして、8位入賞を果たすことができました。



多くの市民が参加した市民映画「タカハマ物語」

市民映画「タカハマ物語」

B-1当日にはチリトリ隊やしりトリ隊、場所トリ隊などといったユニークな発想で、地域の関係者が協力し合い、高浜流のおもてなしを実施しました。8位入賞は、そうしたおもてなしが会場にいられた皆さまに伝わった結果だと実感しております。

「とりめし」という一つのツールを通して、大人から子どもまで、一緒になって活動していただいたことで、地域のつながりが一層深まるとともに、改めて高浜というまちを見直していただくきっかけとなったのではないかと感じております。

市民映画「タカハマ物語」は、平成24年9月にお披露目されました。オーディションには、約800名の市民が参加し、市内のいろいろな場所をロケ地として、撮影が行われました。若者

の成長応援事業として、市民団体が中心となって、企業から協賛金を募り、子どもたちの活動を支援しました。

出演者やスタッフは、中・高校生が中心となり、ボランティアも含め、たくさんの市民の皆さんが参加されました。

撮影を通して、これまであまり気付かなかった市内の新しい発見もありました。初回上映日には、約2000人の皆さんが会場に集まりました。会場になった市民センターにあんなに行列ができたのは、これまで見たことがありませんでした。関係者にとっては、うれしい悲鳴でした。

映画が完成すると、地元商店の協力もあり、タカハマ物語をモチーフにしたコーヒーやお酒などの商品が順次発売されました。今でもタカハマ物語を引き続き、盛り上げる活動が続いております。

現在は、子どもたちと関連商品のCMづくりを行いながら、映画の第2弾制作に向けた活動が始まっています。

私のまち「高浜市」

これらのように市民がまちづく

りに深くかわかることで、活動が次へ次へとつながっているという実感があります。

「自分たちのまちは、こうあってほしい」という思いを、市民も職員も一人一人が持ち、「私のまち『高浜市』は：」と「1人称で語れるまち」を目指すとともに、大家族のような思いやりや絆、「心地よさ」が感じられ、「住んでいてよかった」と思っていただけできるよう、取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 13・02km²
- ◆ 人口 4万6179人
- ◆ 世帯数 1万7879世帯

〔将来都市像〕 思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかほま

〔まちの特徴〕 全国シェア第1位の三州瓦のまち。モノづくりのまち

〔特産品〕 三州瓦、高浜とりめし、陶



高浜市長 吉岡初浩



器、鶏卵、吉浜細工人形、菊人形

〔観光〕 高浜市やきものの里かわら美術館、鬼みち、人形小路、大山緑地、三州だるま蒸

〔イベント〕 おまんこ祭り、射放弓、えんちよこ獅子、花の塔、芳川渡し場まつり、鬼みちまつり



B-1グランプリで8位入賞を果たした「高浜とりめし学会」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「わたしも「役」の市民力で、柳井の活力を強めていく

人が輝く・夢が生まれる

瀬戸内のふれあい元気都市

柳井市は、山口県南東部の瀬戸内海沿岸部に位置し、多島美を誇る瀬戸内の景観をはじめ、市街地周辺の山々など緑豊かな自然に恵まれています。

近年では、全国屈指の日照時間を誇り、温暖な気候に恵まれている当地域の魅力を、陽光と自然あ

ふれる「につぼん晴れ街道」としてPRしています。

本市は、古くから水陸交通の要衝として栄え、藩政時代には岩国藩のお納戸と呼ばれ、産物を満載した大八車が往来してにぎわっていました。古市・金屋地区には、その当時の白壁の町並みが今でも残っており、昭和59年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

有り」は、時代を超えて多くの人に愛されています。

また、本市を代表する民芸品として「金魚ちょうちん」が有名です。割り竹で組んだ骨組みに和紙を貼り、赤と黒の染料で色付けしてつくられ、毎年8月13日を本祭りとして「柳井金魚ちょうちん祭り」も開催され、今では夏の風物詩としてまちに彩りを添えています。

さらに、平成24年12月には、隣接する岩国市に岩国錦帯橋空港が開港し、首都圏からのアクセスが格段に向上しました。

キーワードは「医・職・住」

私は、平成25年3月27日より2期目となる新たな任期をいただき、医療・福祉の「医」、企業立地や6次産業化・観光交流などによる働く場の確保の「職」、自然環境・教

育環境、災害に強いまちづくりなどによる住みよさの「住」、この「医・職・住」を新たなキーワードとして、ローカル・マネIFEST「チャレンジ柳井」の具現化に取り掛かっています。

平成24年から151人の雇用を生むべく取り組んできた厚生労働省の委託事業「実践型地域雇用創造事業」では、各種セミナーの開催、新たな観光への取り組み、エディブルフラワー(食用花)の産地化などを通じて、平成25年11月末までに、既に150人を超える雇用に結び付けることができました。また、市役所内に設置した「企業立地・雇用創造推進室」の職員がハローワークの職員とともに管内の事業所約300社余りを訪問し、情報収集や交換、求人要請を行うなど、地道ながらも注目される取り組みを行ってきました。その結果、平成25年8月の本市の有効求人倍率は1・22倍(県内2位)、9月は1・33倍、10月は1・50倍



明治維新に貢献した幕末の海防僧「月性」

市内、遠崎地区には詩人として、また幕末の海防僧として多くの志士を輩出した僧「月性」にまつわる資料などを集めた月性展示館があります。月性の詠んだ漢詩「將に東遊せんとして壁に題す 男児志を立てて郷関を出づ 学若し成る無くんば復た還らず 骨を埋むる何ぞ期せん墳墓の地 人間到處有青山

と県内19市町中でトップとなりま
した。今後、この傾向をさらに確
実なものにしていくために、事業者
の方々との密接な連携の下、努力
してまいりたいと考えております。

また、平成25年4月12日、市内
山間部、国道437号沿いにオー
プンした都市農村交流施設「ふれあ
いどころ437」は、11月には来場
者が10万人を超えました。地元農
産物の直売所と地元の女性グルー
プによる農家レストラン「山里びづ
み」を合わせた売上高も6000万
円を超え、多くのファンの方々に
支えられ、順調なスタートを切る
ことができました。今後も、持続
可能な地域づくり、農業づくりの
拠点としての意義を高めていきた
いと思っています。

市民と行政の協働の まちづくり

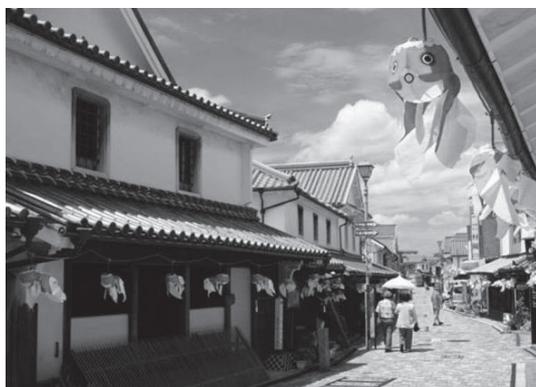
厚生労働省国立社会保障・人口
問題研究所の平成25年3月の発表
によると、今から26年後の平成52
年には、本市の人口は、現在の約
3万4000人から約1万人減少
し、約2万4000人になると推
計されています。

平成27年2月には、旧柳井市と

旧大島町の合併から10周年を迎え
ます。そのような中、国から交付
される地方交付税は5年間で段階
的に減額され、その額は約5億円
と試算されています。

このような現実を直視するとき、
市民自らが「当事者意識」を持って
市政に参加・参画する「市民と行政
の協働のまちづくり」がますます重
要になってくると考えます。

そして、その協働によって、山
口県と進める「コンパクトなまちづ
くりモデル事業」、高校跡地を活用
した「高等教育機関の誘致」、小学
校や地域のコミュニティを中心に
地域づくりを目指す「スクール・コ
ミュニティ」、スロージョギングや
健康マイレージによる「健康づく



国の重要伝統的建造物群保存地区「白壁の町並み」

り」など、今まで以上に地域コミュ
ニティを巻き込みながら推進して
まいりたいと考えています。

市民参加型の市政を 目指して

さらなる行政改革と事業の取捨
選択が求められる中で、6年目を
迎える「市民と市長と気楽にトーク
(市民との意見交換会)。平成21年5
月以降221回開催、述べ3300

人余りが参加) だけではなく、あ
りとあらゆる機会を通じて、価値
観も、ものの見方も、世代も違う、
利害も対立するなど、いろいろな
立場にある市民の皆さまの声に耳
を傾け、その総意を優先順位とし
て定め、市政の中に反映させ、そ
れを「わたしも一役買いたい」と願
う市民とともに実行していく、市
民参加型市政で柳井の活力を高め
てまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 139・90 km²
- ◆ 人口 3万4241人
- ◆ 世帯数 1万5983世帯

〔将来都市像〕人が輝く・夢が生まれ
る 瀬戸内のふれあい元気都市

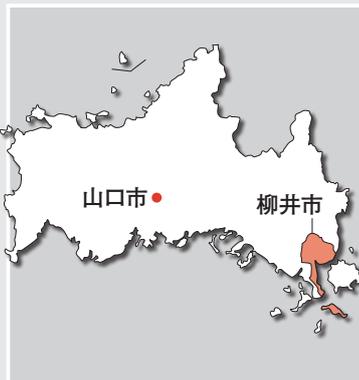
〔まちの特徴〕古くからの水陸交通の
要衝。古市・金屋地区の白壁の町並み
は国の重要伝統的建造物群保存地区

〔市町村合併〕平成17年2月21日、旧
柳井市、旧大島町が対等合併

〔特産品〕甘露醤油、いちじく、ぶどう、



柳井市長
井原健太郎



三角餅、茶がゆ、橘香酢、金魚ちよ
うちん、柳井縞、自然薯

〔観光〕白壁の町並み、柳井市都市農
村交流施設「ふれあいどころ437」、
僧月性と清狂草堂、大島観光セン
ター、やまぐちフラワーランド

〔イベント〕柳井天神春まつり、柳井
金魚ちようちん祭り、大島俄まつり、
サザンセット大島タイ釣り大会、柳井
まつり、阿月神明祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。